

コミュニティ・スクール

文部科学省では、地域とともにある
学校づくりを推進しています!!



文部科学省

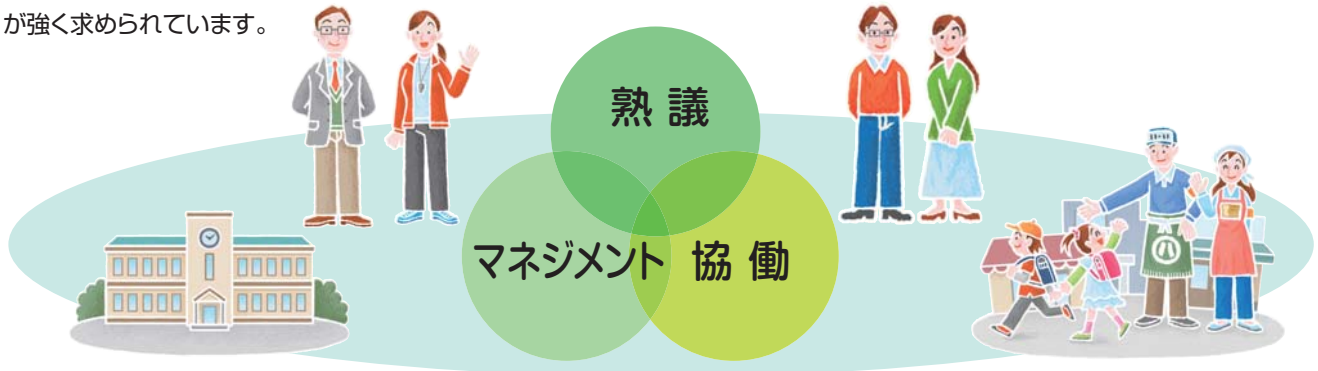
地域とともにある学校づくりを目指して

学校と地域の人々（保護者・地域住民等）が目標を共有し、一体となって地域の子どもたちをはぐくんでいくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながります。

こうした地域とともにある学校づくりを進めていくために、

- ★学校と地域の人々が、みんなでよく考え、話し合っていくこと（**熟議**）
- ★同じ目標に向かって、一緒になって活動していくこと（**協働**）
- ★校長を中心に、人をつなぎ、学校の組織としての力を上手く引き出すこと（**学校のマネジメント**）

が強く求められています。



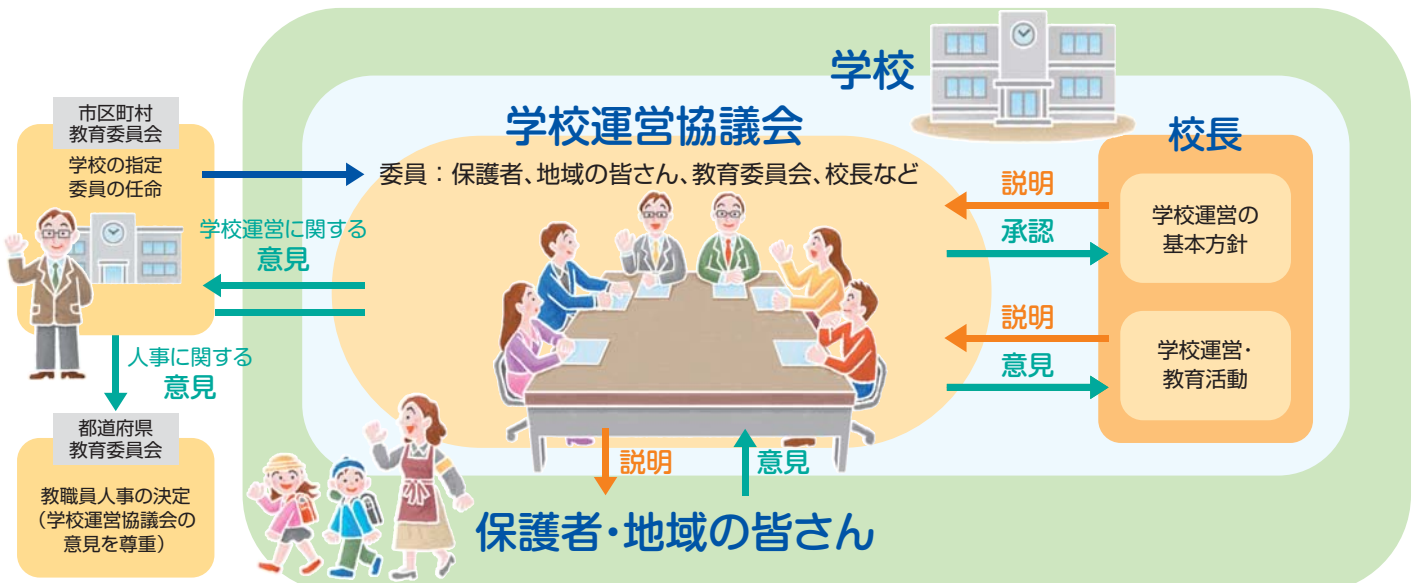
※地域とともにある学校づくりについては、「子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～」(学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議 平成23年7月5日) に詳しく示していますので御参照ください。

コミュニティ・スクールは、地域とともにある学校づくりを進める上での有効なツールとして期待されています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、地域の公立学校の運営にあなたの声を生かす仕組みです。

※学校運営協議会を設置した学校を「コミュニティ・スクール」と言います。

コミュニティ・スクールのイメージ



●保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映する「学校運営協議会」を設置可能とするため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正。平成16年9月9日より施行。

Q&A コミュニティ・スクールって何？



Q1 どんな仕組みですか？



コミュニティ・スクールに指定された学校には「学校運営協議会」が設置され、教育委員会から任命された保護者や地域の皆さんなどが、一定の権限と責任をもって、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりすることを通じて、学校の様々な課題解決に参画していきます。

Q2 他の学校とどこが違いますか？

学校運営に当たって、保護者や地域の皆さんの参画が仕組みとして保障されていることが他の学校との違いです。学校と地域が力を合わせることによって、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に地域の子どもたちの成長を支えていく、そんな学校づくり、地域コミュニティづくりを進めていくことが、コミュニティ・スクールの一番のねらいです。

Q3 学校運営協議会の委員には誰でもなれるのですか？



学校運営協議会委員には保護者と地域の皆さんが含まれる必要があります。その他のメンバーについては、学校や地域の実情を踏まえて教育委員会で定めることになっています。また、委員の選出方法など、具体的な手続きについても教育委員会で定められます。委員構成のバランス等にも配慮しつつ、熱意ある優れた人材を選んでいただくことが期待されます。

Q4 地域の学校をコミュニティ・スクールに指定するには？

コミュニティ・スクールは、小・中学校はもちろん幼稚園や高等学校などの地域の公立学校に導入可能です。導入するかどうかは、学校、保護者や地域の皆さんの意向等を踏まえて、学校を設置する地方公共団体の教育委員会が決定します。

Q5 学校運営協議会はどのようなことができるのですか？



学校運営協議会の主な役割は3つあります。

- 校長の作成する学校運営の基本方針を承認します。
 - ・学校の重点目標や年間の学校行事計画などの基本方針について、校長の説明を受け承認
- 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べられます。
 - ・「挨拶の指導に力を入れて欲しい」、「地域に協力を求めて欲しい」、「学校にエアコンを入れて欲しい」「学校予算を増やして欲しい」などの意見
- 教職員の任用に関して教育委員会に意見が述べられます。
 - ・「若手の先生、体育が得意な先生が必要」、「A校長やB先生に次年度も残って欲しい」などの意見

Q6 人事の意見は出さなければいけないのですか？

Q5で述べた学校運営協議会の役割は、地域や学校の実情に応じて、多様な形で運用されますので、「人事に関する意見」を述べない学校運営協議会もあり得ます。

「人事に関する意見」については、このほかにも、意見を出す前に校長の意見を聞いている例や、校長を経由して教育委員会に意見を述べている例など、地域の実情に応じた多様な運用が見られます。



Q7 コミュニティ・スクールの成果や課題

学校が抱える様々な課題を解決するために、地域と連携した学校づくりに積極的に取り組むことで、例えば次のような成果をあげています。

- 地域全体で子どもを守り育てようとする意識が高まり、多くの保護者や地域の皆さんが先生役や見守り役として学校に協力する姿が見られるようになってきました。
- 保護者の「学校への苦情」が「意見や提案、相談、協力」へと変化してきました。
- 地域のお祭りづくりなどに参加する子どもが増え、地域が活性化してきました。

一方で、学校運営協議会の協議の形骸化や地域住民の参画の偏り、継続的な取組を進めるための支援の不足などの課題も見られています。

こうした課題の解決に取り組んでいる教育委員会や学校等の実践例を5～8ページに載せていますので、御覧ください。

